

平成21年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	山梨県立 北 杜 高等学校	課 程	◎ 全 ・ 定
校長名	市 村 一 司	担 当 者	成 田 健
所在地	〒408-0023 山梨県北杜市長坂町渋沢1007-19 TEL 0551-20-4025 FAX 0551-32-3194		
生徒数	男 子 374名	女 子 463名	合 計 837名
通学手段 (4月時点)	徒 歩： 15名	自 転 車： 40名	原 付： 250名
	バ ス： 110名	電 車： 350名	そ の 他： 72名
特 色	<p>県北部に位置し、3学科24クラスを擁する大規模校である。公共交通機関の利用に恵まれていず、原付免許の取得者が多く、原付通学者も多い。最近では減少してきたとは言え、原付利用者の事故・違反件数も相当数あり、安全意識・運転技術の一層の向上が望まれる。JR電車を利用する生徒が半数近くを占めているが、駅からの通学路は道幅の狭い箇所があり、歩道も不十分な所がある。一昨年度には、下校時に駅へ向かう生徒が死亡する交通事故も発生した。電車利用の際のマナーも含め、全ての生徒に交通安全意識の向上や、ルール・マナーを確実に身につけさせる必要がある。</p>		

1 実施状況

(1) 取り組みテーマ

生徒の実態の把握と安全意識の向上を図る。

(2) 取組内容

4月10日(金) JR乗車マナー教室

- ・社会の一員として守るべき公共交通マナーに対する意識の向上を図るために、講師として東日本旅客鉄道株式会社小淵沢駅長の松永弘司様を招き、全校生徒に話をいただいた。

5月18日(月)～22日(金) 交通安全街頭指導

- ・通学路、通学時における安全意識の向上、ルール・マナーの遵守の徹底を図るために、全校教職員と生徒(交通自治委員)により、登校時に最寄り駅から学校までの5箇所で行った。

- 5月16日(土)・23日(土) 原付通学者実技講習会
- ・原付通学者の安全運転のための知識・意識・運転技術の向上を図るために、長坂自動車教習所において、教習所所員による講習および実技指導を行った。参加者は2、3年生の原付通学者330名。
- 6月21日(日) 通学路点検・除草作業(P T A)
- ・学校周囲の通学路の状況を保護者に知ってもらい、除草等により安全な通学路を確保するために行った。1学年保護者137名、P T A役員8名、職員11名の計156名が参加した。
- 6月30日(火) 交通事故・違反「0」3か月運動(開始式)
- ・社会的な運動に参加することで交通安全に関する意識の一層の向上を図るために、交通自治委員会委員長の生徒が全校生徒を代表して、宣誓を行った。
- 7月 1日(水)～9月30日(水) 交通事故・違反「0」3か月運動
- 7月 7日(火) 防犯教室「安全について」
- ・生活面だけでなく、交通の面での「安全」について考えさせるために、本校生徒指導係職員から全校生徒に話をした。
- 7月14日(火) 交通違反者反省会
- ・交通事故、違反者21名に対して、交通ルールの確認と安全運転のための意識の向上を図るために、ビデオの視聴と係職員からの話をした上で、自らの改善点について考えさせ、作文として提出させた。
- 8月16日(日) 通学路点検・除草作業(P T A)
- ・学校周囲の通学路の状況を保護者に知ってもらい、除草等により安全な通学路を確保するために行った。1学年保護者41名、P T A役員3名、職員9名の計53名が参加した。
- 9月29日(火) 前期生徒対象アンケート
- ・全校生徒を対象に、交通安全意識の把握のためにアンケートを実施した。
- 10月 3日(土) 原付通学者実技講習会
- ・原付通学者の安全運転のための知識・意識・運転技術の向上を図るために、長坂自動車教習所において、教習所所員による講習および実技指導を行った。参加者は1年生、および2、3年生で5月に未実施の原付通学者123名。
- 10月19日(月)～30日(金) 交通安全街頭指導
- ・通学路、通学時における安全意識の向上、ルール・マナーの遵守の徹底を図るために、全校教職員と1年生保護者により、登下校時に最寄り駅から学校までの3箇所で行った。協力保護者31名。
- 12月15日(火) 交通違反者反省会
- ・交通事故、違反者32名に対して、交通ルールの確認と安全運転のための意識の向上を図るために、ビデオの視聴と係職員からの話をした上で、自らの改善点について考えさせ、作文として提出させた。
- 12月18日(金) 交通L H R
- ・「セーフティ・アクション21」を活用し、各学年毎に同一テーマでL H Rを実施した。

- 1年生は「二輪車の特性を理解しよう」（「セーフティ・アクション21」No.5を利用）
- 2年生は「危険を予測しよう」（「セーフティ・アクション21」No.12を利用）
- 3年生は「違反・事故の与える影響を考えよう」（「セーフティ・アクション21」No.9を利用）

1月13日(水)～19日(火) 交通安全街頭指導

- ・通学路、通学時における安全意識の向上、ルール・マナーの遵守の徹底を図るために、全校教職員と生徒（交通自治委員）により、登校時に最寄り駅から学校までの5箇所を指導を行った。

2月19日(金) 後期生徒対象アンケート

- ・1、2年生を対象に、交通安全意識の把握のためにアンケートを実施した。

3月9日(火) 交通違反者反省会（予定）

2 成果と今後の課題

(1) 成果

① 生徒の実態の把握

まず、交通安全に対して、生徒が実際にどのように考えているかを把握できたことが大きな成果であった。今年度の取り組み内容も、多くは従来から行われてきたものであるように、本校ではこれまで交通指導に力を入れてきており、また、原付免許の取得者数や原付通学者の数から見ても、違反者や事故数は比較的少なく、生徒の意識は比較的高いと漠然と思っていたが、今年度初めて実施したアンケートにより、必ずしもそうではないという実態が判明した。

前期末の9月29日(火)に実施した前期アンケートの結果からは、次のような生徒像が浮かび上がってきた。それは端的に言えば、「事故は他人事であり、自分は大丈夫」だという安易な、根拠のない考えを持った、「交通安全」に関する「意識の低さ」である。

例えば、前期末(9/29)の時点で報告のあった事故件数が16件、違反件数が14件であったのに対して、アンケートでは事故が76件(4.8倍)、違反が75件(5.4倍)であった。中にはちょっとした転倒や、警察には指導されていない違反も含まれていると考えられ、また、後述する「指導の在り方」とも関連することだが、いずれにしても、予想を上回る件数であった。違反の種類を見ても、「ついうっかり」というよりも、「まあいいか」という姿勢が感じられるものが多かった。

そして、「ヒヤリ・ハッと」体験を、数で言えば、ほぼ原付通学者全員が体験していることになっている。その原因や改善の具体策についてはよくわかっており、立派な答えが出されているが、よく検討すると、改善を放棄するような回答（「乗らない」「わからない」「どうしようもない」）も見られ、また、2・3年生では「月1回」体験すると答えた者がそれぞれ50人おり、「自分自身がきちんと改善する」こととして捉えていない点が見られた。

さらに、「危険回避の心がけ」や「交通事故を減らすために」についての回答では、「特になし」や「記入なし」の者が全校生徒の1/4おり、それも学年が進むにつれて増加していた。

「交通規則を守っていない」と答えた者が464名（「時々守っていない」も含む）

いたことを併せて考えると、先に述べた「安全意識の欠如」「自分のこととして捉えていない」傾向は明らかである。

また、報告された事故・違反の件数と、アンケートの件数の相違には、いわゆる「生徒指導」の問題として対処してしまう、現在の本校の指導の在り方も影響していると言えるだろう。

② 「交通安全」に関する意識の向上（アンケートから）

後期のアンケートは2月19日(金)に実施した。対象は1・2年生となったが、ここからは、次の点で「意識の向上」が見られた。

まず「交通規則を確実に守っている」と答えた生徒が、1年生で34.6%→43.1%、2年生で45.2%→49.1%と増加している。次に、「ヒヤリ・ハッと」体験も、「ない」と答えた者が、1年生では187人→180人、2年生では126人→142人となっていた。1年生は原付免許取得者が66人→121人と倍増し、通学者も47人→84人となったにも関わらず、微減に留まっているのは、意識の向上が見られるだろう。そして「違反」件数も、1年生で19件→6件、2年生で19件→13件となっており、事故件数も、1年生で14件→12件、2年生で37件→21件となっている。いずれも減少しており、この点でも生徒の意識の変化がうかがえる。

ただ、残念ながら、「交通事故を減らすために」についての回答では、「特になし」「未記入」の者が、1年生では41人→51人、2年生では61人→79人と増加しており、その点ではまだ「意識の向上」が不十分であると言えるだろう。

③ 教師の意識の向上（交通LHRを実施しての感想から）

12月18日(金)に実施した全校一斉の「交通LHR」に関しては、指導に当たった教師から、次のような感想があった。

「興味を持ってワークシートに取り組んで、自然に意見交換したり、話し合ったりしていた。内容や構成もよく考えられていて、資料がよくできており、やりやすかった。」

「ワイワイしながらも、思った以上にしっかり取り組んでいた。」

「自分のこととしてハッと気づいたり、実感したり、反省したりしていた。」

「このようなLHRは定期的にやってもいいと思った。」

「生徒にとって初めて知ったことがあり、驚いてもいた。授業(LHR)で生徒が感心したり、驚いたりしている姿を初めて見た。」

「反応がよく、学級日誌にも前向きな記述があった。教師も交通に関する知識が必要だと感じた。」

「楽しく、明るく行い、真剣に考えていた。」

「自分自身も知らないことがあったので、勉強になった。」

「なぜ交通ルールを守るのか、ただの話とは違い、生徒自身が考える機会となり、とても良かった。印象深いものになった。」

「もう少し踏み込んだ話をしたいと思ったが、時間が足りなかった。」

「(3年生は)進路に関係する話を発展させてできたので、自分のこととして考えられた。」

「事前に資料をもらっていると、教師もより良く内容を理解できたと思う。」

交通安全に関するLHRを実施したのは、本校では初めてであった。生活指導に関する事柄では、係からの話や注意等が中心となり、特に今年度のように、学校として「高校交通教育の実践」指定校ということになると、どうしても担当する係任せになる傾向がある。今回、交通LHRを実施したことで、HRを担当する教師自身も交通安全指導の必要性を理解し、意欲的に取り組み、主体的に指導しようという意識が少しでも向上したと思われる。

④ 実施する中で明らかになった問題点

しかし、実施する中で明らかになった問題点もある。それも一つの「成果」と考えられるので、次に挙げたい。

まず一つは、「ヒヤリ・ハット」体験の活用である。後期アンケートでは、結果的に「ヒヤリ・ハット」体験が減少したが、前期アンケートで判明した「ヒヤリ・ハット」体験を具体的に活かした指導は行えなかった。次に、「自分のこととして」考える意識は向上が見られたが、「社会」に対して自分がどう働きかけていくかという点になると、アンケートでも「未記入」や「特になし」が多いように、指導を実践することができなかった。さらに、交通安全の意識の向上は、実際の運転や歩行と関連させなければ実質的な意味はないが、その点でもなかなか有効な指導を行うことができなかった。

以上は、明らかになった「問題点」であるが、今年度「高校交通教育の実践」モデル校となったからこそはっきりとしたことであり、その点で今後の本校の交通教育を考える上で、大きな「成果」であったと言えるだろう。

(2) 今後の課題

今後の交通教育を考える上では、様々な課題が考えられるが、特に挙げるとすると、次の四つが考えられる。

① 教師の意識改革も含めた全校的な指導体制の再構築

生徒指導係だけでなく、全校の教職員が一致して、「交通安全」に対する指導を行う体制をどうやって形作るかについては、考え直す必要があるだろう。「意識」の向上を促すのも、実際的な取り組みがなければ意味はなく、さらに、ポイントを絞った具体的な指導の方針や方策を提示する必要もある。

② 有機的で相互に関連性のある指導計画の立案

交通安全に関する取り組みは、従来から様々な形で行われており、本校でも保護者の協力をいただいて行うものや、講話、実技講習など、多くのことが行われてきた。しかし、それぞれが「それだけ」で終わっていた感も否めず、相互の関連性が薄かったと言える。時間的な制約もある中で指導を充実させるためには、それぞれの取り組みをつな

げ、一つの目標に向けた、つながりのある指導計画を作成することが大切である。

③ いわゆる「生徒指導」と関連させた指導の在り方

従来からの指導では、違反を犯した者を事後に指導するという形が中心であった。生徒に考えさせることはしてきたが、どうしても「罰」として指導するという意識があった。事故や違反の報告件数が実際よりも少ないというのは、他でも見られることかもしれないが、ともすれば生命に関わる交通安全教育では、再考する余地があるだろう。そしてそうすることにより、「予防」のための指導が可能になると思われる。

④ 歩行者・自転車運転者も含めた「交通社会人」育成のための方法

本校の交通安全教育は、ともすれば原付免許所有者・原付通学者に偏りがちで、今年度もその傾向があったが、生徒は、ある時は歩行者でもあり、ある時は自転車運転者、さらに卒業後も考えれば自動車運転者にもなる。この「交通社会」の中で、我々は様々な形で「交通安全」を考えなければならない。付け焼き刃ではなく、交通社会の一員としての自覚をしっかりと持ってルールやマナーを守って行動する、よき「交通社会人」の育成こそが高校における交通教育の目標であろう。そういった大きな視点で生徒を指導していくことが重要である。

3 その他

おわりに、今年度「高校交通教育の実践」事業モデル校にさせていただき、本校における交通教育の在り方を見直す機会を与えていただいたこと、第30回関東地区高等学校交通安全教育指導者研修会での発表の機会を与えていただいたことに感謝を申し上げます。

(添付資料)

- | | | | |
|-------------|----------|-------|------|
| (1) 前期アンケート | ①アンケート用紙 | ②集計結果 | ③グラフ |
| (2) 後期アンケート | ①アンケート用紙 | ②集計結果 | ③グラフ |
| (3) 交通LHR資料 | | | |